



### 「職人 (刻)」

父の仕事場はたくさんの道具で溢れていて、その全てが理に適った美しさと手の温もりでいっぱいでした。足と靴の不思議なフォルムに惹かれ、いつしか絵筆を取っていました。この作品は、大小様々なキャンバスと板を繋ぎ合わせ、それぞれの刻（とき）を切り取って描いたものです。

#### 【画歴】 見一 眞理子（みいち まりこ）

東京都出身、1993年二紀展初出品、1998年初個展（銀座）、1999年「靴の日」のイベントポスターに二紀展出品作が起用される、2002年Slow-Shoes2002「明日を夢みる靴と絵のジョイント展」出品（主催・シューフィルC&Cネットワーク）、シューズ・アート・ギャラリー「◆モチーフとしての靴◆」展出品（広島県福山市 はきもの博物館企画展）、2003年二紀展奨励賞、靴の見本市（浅草）に作品展示、2005年二紀会同人推挙、2006年東京二紀賞、2008年上野の森美術館大賞展、2011年個展（銀座）  
現在 一般社団法人二紀会準会員